



進路だより

2月号
進路指導部
R7.2.27 発行

小学部における移行支援

小学部から中学部へのスムーズな移行に向けて、毎年2月から3月に6年生は中学部の授業を見学する機会を設けています。中学部の授業はグループで行う教科学習や、全学年で行う教科学習など小学部とは違った形態の学習があります。当日は国語、作業学習、生活単元学習、理科、音楽の授業を参観しました。子供たちは、中学部の生活や学習の様子を知り、「早く中学生になりたいな。」「作業学習が楽しみだな。」と新生活を楽しみにしているようでした。中学部入学への意欲付けになったと思います。また、小学部入学予定の移行支援のために、新1年生と保護者との面談や園訪問に取り組んでいます。児童生徒が充実した生活を送ることができるよう小学部、中学部で連携して移行支援を行っています。

(文責:小学部 北岡)



〈国語の授業の様子〉



〈音楽の授業の様子〉



高等部卒業後の進路

2月上旬に熊本県特別支援学校進路指導主事連絡会がありました。その際、資料として「令和6年度高等部卒業生進路状況(令和7年1月現在)」が配付されました。資料には、今年度卒業生の進路先(日中活動の場)と卒業後の生活の場の統計が示されています。

日中活動の場としては、一般企業への就職、福祉サービスの利用(就労継続支援A・B型、生活介護、自立訓練、就労移行支援)、訓練校などへの進学がありました。これらについては、本校高等部でも現場実習を行ったり、案内をしたりしており、卒業後の進路として検討されることが多いと感じます。

一方、生活の場については、本校では卒業と同時に変わることはありません。しかし、県内で平均すると10人に1人くらいの割合で、高等部卒業と同時に「共同生活援助(グループホーム)」や「施設入所支援」を利用する方がいます。本校では、令和元年からの6年間の卒業生の中で1名が卒業と同時にグループホームを利用し始めました。ものづくりが好きで、支援を受けながら好きな仕事をしたい、ということで就労継続支援A型事業所の利用を決めました。その事業所が八代から離れたところにあったことから、卒業と同時にグループホームの利用をすることになりました。もしこの生徒が自宅から通うことを優先していたら、仕事が変わっていたかもしれません。何を優先して進路を決めるかはそれぞれに異なります。進路を考えるときには、本人が好きなことや得意なこと、または苦手なことなどの情報を集めておくことも大切だと考えます。

(文責:高等部 松岡)

